

マイコミュニティフォーラムによる地域若者の啓発活動とその成果について

寺田耕治（公益資本主義推進協議会）

Keyword： 地域振興、若者支援、NPO 支援

【問題・目的・背景】

世界および日本において株主資本主義への著しい偏りが蔓延している。このことは、南北格差の固定化、先進国内での貧富の格差拡大、テロの温床となる国家秩序の破壊など、各種社会問題の一因となっていると考える。

こうした世の中の傾向に警鐘を鳴らすため、筆者が所属する公益資本主義推進協議会（以下、PICC）では、日本に古来より存在している経営者の考え方である公益資本主義（中長期的経営視点、社中分配、改良改善等）を学び、実践し、啓発するための活動に取り組んでいる。

公益社会を実現することを目指し、経営者を中心に様々な実践活動に取り組んでいるが、その一つとして2016年末から「マイコミュニティフォーラム」をスタートさせた。若者達の社会に対する意識を“OFFからONへ”変え、新たな中心軸を作っていくことが狙いである。

短期的には若者に自身の使命感や利他の精神について気付きを与えることを目標にしている。その中には、たとえば自発的に選挙参加をする若者を増やしたいということも含まれている。中期的には、全国に5万あると言われるNPO・NGO・社会企業を支援しながら、公益社会に向かっていく人たちの増やすムーブメントを作ることが目標。そしてそういう団体・人がマジョリティになり、長期的には公益社会が、この世の中に築かれていくことを期待している。

【研究方法・研究内容】

① フォーラムの開催

若者、特に大学生をターゲットに「マイコミュニティフォーラム」を全国で開催した。

- （第1回 宮城開催）2016年12月10日（土）

テーマ：若者の地域参加とスポーツを通じた地域活性化

- （第2回 東京開催）2017年1月18日（土）

テーマ：地域（力）で育む子どもの未来、成功の“鍵”は、地域のチームづくり

- （第3回 愛知開催）2017年2月25日（土）

テーマ：わたしたちの未来はわたしたちの手で

～若者が地域を元気にする～

- （第4回 大阪開催）2017年3月25日（土） 場所：

テーマ：全ての学生に贈る幸せな働き方のアドバイス

- （第5回 福岡開催）2017年5月20日（土）

テーマ：「幸せ」「豊かさ」のを見つけ方

～私たちが抱えている閉塞感の答えを見出す～

- （第6回 宮城開催）2017年6月17日（土）

テーマ：未来をつくる SENDAI 学生会議

～地域活性って何だ？～

- （第7回 東京開催）2017年7月22日（土）

テーマ：～未来をつくる～ TOKYO 学生会議

「集え！君の“今”には価値がある！」

- （第8回 愛知開催）2017年9月30日（土）

テーマ：わかもの活動 何でも相談所

- （第9回 広島開催）2017年11月11日（土）

テーマ：私たちの行動【興動】でひらく明るい未来

- （第10回 大阪開催）2017年12月2日（土）

テーマ：豊かな未来を創るソーシャルグッドな活動を。

- （第11回 宮城開催）2018年5月12日（土）

テーマ：働き方の未来2035

一人ひとりが輝くために — 働き方を考えるフォーラム。

- （第12回 東京開催）2018年6月30日（土）

テーマ：TOKYO 学生会議 2018

“YouthQuake” 若者の影響力に価値がある！！



- （第13回 大阪開催）2018年10月13日（土）

テーマ：Social Good Presentation 2018

- （第14回 福岡開催）2018年10月27日（土）

テーマ：みんなが幸せを感じる社会って、どんな社会だろう？

- （第15回 広島開催）2018年11月10日（土）

テーマ：人間力 × 未来 ～これから求められるチカラ～

- （第16回 愛知開催）2018年11月17日（土）

テーマ：東海学生 AWARD

● (MYCO 全国大会 2019) 2019 年 3 月 16 日 (土)
 テーマ: "YouthQuake" 若者の影響力に価値がある!!



マイコミュニティフォーラムは、土曜日の午後15時に学校や貸し会議室を使い開催した。各地域の経営者や学生、NPO等に企画段階から参加を募り、各地でそれぞれテーマを決めている。宮城「若者の地域参加とスポーツを通じた地域活性」、広島「人間力×未来～これから求められるチカラ～」、福岡「みんなが幸せになる社会のあり方」等、一見バラバラだが共通しているのは若者に地域/社会参加に興味を持ってもらうこと。

はじめに代表世話人である村尾信尚氏から「私の社会をつくるための2つの券」と題し、「私たちには社会を変える2つの力、投票券と日本銀行券を持っている」ということについて平易に解説する講演があり、その後にパネルディスカッションや聴衆も参加できるワークショップ等を通じ、自分と地域や社会との関係性について気付きを与えること、あわせて自分自身は地域や社会に対してどのようなことができるのかについて考え、発言できる場を提供している。

今回は来場者アンケートの分析および各地のコンテンツから見てきた傾向を確認しながら、本フォーラムの効果や今後の可能性について検討していきたい。

② 来場者アンケートの実施概要

フォーラムの課題について把握し改善につなげるため、毎回、来場者に定形設問5問(選択式)とフリーコメントを記載するアンケート用紙を配布し、回答を求めた。

- ・母集団 マイコミュニティフォーラム参加者 1983名(第1～16回まで)
- ・有効回答数 896通(有効回答率45.2%)
ただし、地域により一部設問が異なる場合がある。
- ・調査期間 2016年12月10日～2018年11月17日

○設問の骨子

基本情報：年齢、性別、イベントを知ったきっかけ

Q1 どのような目的で当イベントに参加いただきました

か? ※複数選択

Q2 フォーラムについて、10点満点で評価してください。

Q3 印象に残っている話は何ですか? ※複数選択

Q4 気持ちや考えに変化はありましたか? ※複数選択

Q5 次回、このようなイベントがあれば参加しますか?

Q6 その他、フォーラムの感想・ご意見

○回答者の属性

回答者の年齢は、フォーラムのメインターゲットである10代、20代の若者がおよそ65%を占める。主催者であるPICCは若手経営者を中心とした組織であるため、30代・40代も3割弱いる(N=823 一部、年齢について設問しなかった開催は除外している)。

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
190人	342人	103人	127人	50人	7人	4人
23.1%	41.6%	12.5%	15.4%	6.1%	0.9%	0.5%

イベントを知ったきっかけは、知人、学校・会社、PICC関係者で8割を占める。人的アプローチの有効性を確認できる一方、学内ポスターやSNS等、若者にリーチするためのツールを見つけていくことが今後の課題と考えている(N=877 本問に関しては、一部複数回答者が存在)。

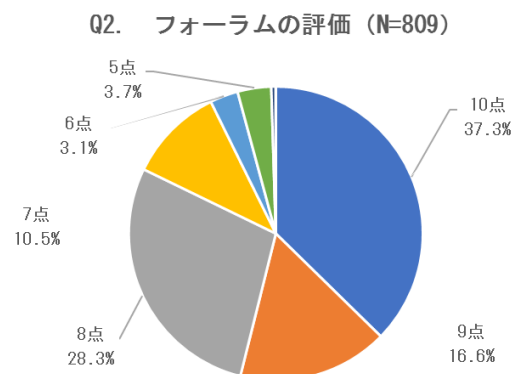
知人	家族	学校・会社	チラシ	ネット系	PICC関係者	その他
354人	24人	220人	24人	57人	170人	28人
40.4%	2.7%	25.1%	2.7%	6.5%	19.4%	3.2%

【研究・調査・分析結果】

アンケート結果から一部抜粋して紹介する。

Q2 フォーラムの評価

参加者にフォーラム全体について10点満点で評価してもらった結果、最高評価である10点が37.3%で最多となった。



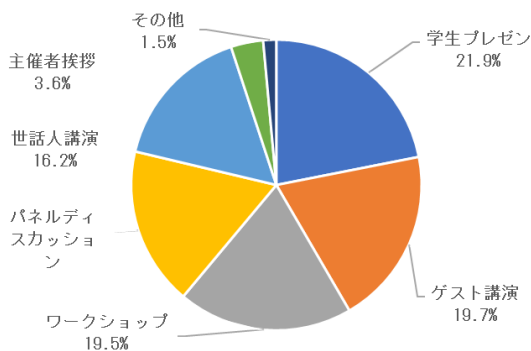
全体の得点を平均すると 8.61 点。2018 年は前年よりも上がっており、フォーラムへの高い満足度が確認できる。

高い得点を獲得した開催の傾向としては、来場者参加型の催しを採り入れていることが多い。前半の講演を聞くことで自分と地域・社会との関係性について気づきを得られたこと。さらに、その得た気づきについてワークショップで発言し、他者とも共有できる場を提供していることが、高い評価につながっている。

Q3 印象に残っている話

一番印象に残っている話として支持されたのは、学生プレゼンテーション。OFF の若者を ON にするためには、実際に社会で様々な活動に挑戦している若者を知ってもらうことから始めようとする取り組みの結果、児童支援や途上国支援、地域支援等にチャレンジする学生団体に注目した。彼らの活動について知ってもらう手法を各地で検討したところ、プレゼン形式のイベントが増えている。参加者に支持されている要因としては、多様な社会問題解決に挑戦する学生の熱意が観客に伝わった結果であると捉えている。

Q3. 一番印象に残っている話 (各回平均)

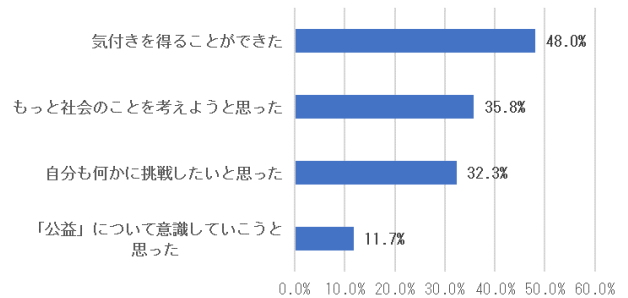


Q4 気持ちや考えの変化

フォーラムに参加した結果、何か気持ちや考えに変化が生じたか質問した。各地でテーマや講演内容に合わせてアンケートの選択肢も変えているため、ここでは全体で共通している項目のみピックアップしている。

回答を確認したところ「気づきを得ることができた」が最多で 48.0%。「もっと社会のことを考えようと思った」35.8%、「自分も何かに挑戦したいと思った」32.3%と、単なる気づきから一歩進んだ回答をしている参加者も確認できる。フォーラムの狙いである社会に対する意識を“OFF から ON へ”が、着実に効果を生み出していることが確認できる。

Q4. 気持ちや考えに生じた変化 (N=896)



【2018・2019 年の取り組み】

初年度の試行錯誤を経て、現在は大学生をメインターゲットに、彼らの社会への関わり方や就職意識に気づきを与えていくことを全国共通のテーマとして取り組んでいる。

2018 年に実施したマイコミュニティフォーラムの特徴を紹介すると、ひとつは学生団体による活動プレゼンテーションが各地で行われるようになったことが挙げられる。社会に対する意識が OFF の学生に刺激を与えるため、すでに ON の状態で子供支援・途上国支援・社会問題解決等、具体的に行動を起こしている同世代の若者の取り組みを知ってもらうことが気づきにつながると考え、東京・愛知・大阪で行われた。

もうひとつは、事業の第一目的を社会課題解決としている公益企業の活動紹介である。宮城・福岡で実施された。卒業後は多くの学生が、企業への就職という進路を選択する。その際、どのような企業を志望するべきか、新たな視座を持ってもらうことは現実的な“OFF から ON”であり、参加する若者にとって有用であると考えた。

もともと PICC は「働く」＝「社会への貢献」、「会社」＝「社会の公器」という考えをベースに活動している経営者の集まりである。こうした経営者と若者が共に「働くこと」をテーマに考え、議論することで、一人でも多くの学生が納得感を持って職業選択できる場づくりにつなげたい。

また、フォーラムをきっかけに知り合った若者が PICC の活動に参加できる新しい仕組みとして、「U25 会員」を新設した。これまでマイコミュニティフォーラムは 16 回開催しているものの、各地域でのフォーラム開催は年 1 回のため、気づきを与えることができたとしても一時的なものにとどまってしまうことが課題だった。「U25 会員」として、PICC の定例会や活動に継続参加することで、その気づきをより深いものにし、実際の行動に変えていくためのフォローをタイムリーに行っていくことが狙いである。この趣旨

に賛同し、全国で 25 名の若者が登録している（2019 年 5 月末時点）。PICC 会員である経営者とさまざまな見聞を広めると共に、マイコミュニティフォーラムの企画や運営に携わってくれるケースも見られるようになっており、双方にとって良い関係が構築されつつある。

2019 年 3 月には、これまで各地のフォーラム運営に携わってきた PICC 会員、参加した学生の中から代表者を選出して全国大会を開催した。各地の経営者とフォーラムをきっかけに何らかの“ON”を体感した若者とがタッグを組み、各フォーラムでの取り組みやそれを通じた気付き、成長などについてプレゼンテーションが行われた。

学生賞を受賞した大阪支部チームは、学生の成長が大きく評価された。代表として登壇した立命館大学生で一般社団法人 Genus の代表を務める矢野童夢さんは、フォーラムに参加を決めた当時の自身を「意識高い系の創業ごっこ」だったと振り返る。フォーラムに参加した同世代の参加者からの刺激、本気で指導してくれた経営者からのアドバイスにより、空き家問題をただ考えるだけで何も行動できていなかったことに気付き、実際に空き家を活用したシェアハウス運営に挑戦するようになった。多くの成長と挫折を繰り返しながら、シェアハウス利用者を 500 人超まで伸ばし、事業経営者としての覚悟を持つまでに成長している。

最優秀賞を獲得した福岡支部チームは、抜群のチームワークでフォーラムでの取り組みや仕掛けについて説明。福岡では企画・準備・当日の運営すべてに学生が 1 年近くかけて携わっており、学生の立ち位置が単なる参加者にとどまらない点をアピールした。フォーラムの熱は終了後も冷めることなく、PICC 会員企業でのインターンシップや経営者が講師を務める勉強会等、活動が点から線へ、線から面へと広がっていることが発表された。



福岡支部から学生代表として参加した福岡大学生の林田茉優さんは、「私をもっとも嬉しかったこと、それは学生や経営者という立場を取っ払ってフェアな関係で一人の人間として熱く厳しく接してくれたこと」と語り、2019 年のマ

イコミュニティフォーラムにもスタッフとして参加することを元気に宣言した。

全国大会以外の場でも、各地のフォーラムに参加した学生からは、「自分の世界観が広がった」「知らない大人と話しをするのが、こんなに楽しいなんて知らなかった」という声が多く寄せられている。また、元ニュースキャスターの村尾信尚氏は、「人から意見を得ることは、今の時代はインターネットでもできることだと思う。しかし、このように一つの場所に多くの人が集まって話し合う空間では、相手の表情やしやべり方、服装、そういうもの全て含めているいろいろな情報が入ってくるので、インターネット空間とは質的に全く違う情報交換ができていて強く感じた」と、フォーラムで提供している対話の場の価値を高く評価している。

【考察・今後の展開】

もともと、「これからの世界を支えていく若者達に公益資本主義の考えを発信することで、社会に対する意識を“OFF から ON へ”変えていきたい」という想いだけで、何も無いところから始めて 2 年半が経過した。実施回数は 16 回を越え、フォーラムの開催ノウハウが積み重なってきている。これまでさまざまな団体・個人に協力いただき、地域/社会のために活動している人は数多く存在すること、彼らは横のつながりを求めていることが分かってきた。実際に、フォーラム開催をきっかけに参加者同士が関係を結び、協業する事例がいくつも生まれている。

さらに 2019 年 3 月の全国大会を経て、このつながりは全国規模に広がろうとしている。今後もマイコミュニティフォーラムを中心に接点を強化し、世話人・地域活性学会・地方議員・NPO・NGO・学生・学校等、より多くの人たちを巻き込んで一つのコンソーシアムをつくっていくことを目指していく。そして、そのつながりから生まれた成功事例を共有していくことで、この手法を活用した地域/社会振興、若者支援、NPO 支援について横展開をはかり、公益資本主義の考えを日本中、世界中へと広げていくための一助としたい。

【引用・参考文献】

原丈人、2013 年 9 月 27 日、『増補 21 世紀の国富論』

原丈人、2017 年 3 月 17 日、『「公益」資本主義 英米型資本主義の終焉』

大久保秀夫、2016 年 2 月 26 日、『みんなを幸せにする資本主義—公益資本主義のすすめ』